



一 誠



- よく考え進んで学ぶ子
 - 明るく心の豊かな子
 - じょうぶでたくましい子
- 令和6年5月31日

校舎3階へ垂直避難します

校長 佐藤 裕哉

「もし授業中に、**太平洋沖で超巨大地震が発生**した」場合、考えられる学校の様子と対応について、一つの例を挙げてみたいと思います。

【午前11時頃、太平洋沖で超巨大地震発生】

- ・授業中断 → 安全確保 → 避難準備 → 待機
- ・職員室では津波等の情報を確認



【避難開始】

- ・大津波警報発令、20分後に最大5m～10mの津波
- ・柏台などへの水平避難は20分以上
- ・津波は、まず川を上る。真歌方面への避難は危険
- ・高静小は海拔6.8m。3階の床面は10m以上
- ・以上のことから「**全校児童・全教職員は3階へ垂直避難**」

【津波到達までの、予想される状況】

- ・近隣住民が避難してきた場合、受け入れ（3階へ誘導）
→ 住民が避難してきた場合、避難所としての役割も発生
- ・保護者が迎えに来た場合「一緒に3階へ避難してください」と声掛け
※東日本大震災では、引き渡し後に親子一緒に津波の犠牲になったケースも
- ・学校周辺の道路は、避難する車、乗り捨てられた車などで大渋滞
- ・停電などにより、学校と保護者間の連絡手段が閉ざされている可能性

【学校周辺にも1～3mの津波到達】

- ・街一帯が津波に襲われると、車は走行不能
- ・学校周辺にもがれきが到達し、校舎1階から出入りできない状態
- ・体育館、校舎1階の教室等は津波、がれきによって使用不能
- ・依然として津波警報は発令中であり、第2波にも警戒

この例のように津波による被害が起きた場合、①学校職員による近隣住民への対応（避難所運営）、②学校周辺の交通渋滞、③大量のがれきなどによって校舎への出入りが難しいなどの理由で、**保護者の皆様への速やかな引き渡しが難しいことが想定**されます。

学校においては、一刻でも早く保護者の皆様への引き渡しができるように努めてまいりますが、何よりもまず、子供たちの命を守るために、3階への垂直避難を原則とした避難行動をとります。つきましては、**保護者の皆様におかれましても、まずご自身の命を守る行動を最優先**していただければと思います。

北海道太平洋沖では、日に日に超巨大地震が起こる確率が高まっております。ご家庭におかれましても、大津波への警戒は十分されていることと思いますが、有識者の方は、津波避難方法の検討よりも、家具の固定など**揺れへの基本的な対策が重要**だとおっしゃっております。家の中の家具の下敷きになったり、出入り口がふさがれたりするなど、津波から逃げたくても逃げられない状態にならないように対策しておくことが何よりも大切とのこと。ご家庭におかれましても、再点検をしてみてくださいはいかがでしょうか。

【お知らせ】

★2学期、**9月27日(金)**ですが、職員の授業力向上の研修を設定いたしました。つきましては、その日を**臨時休業**といたします。ご理解の程、どうぞよろしくお願いいたします。

★来月の学校だよりから、さくら連絡網によるデータ配信に切り替えます。スマートフォンでも読みやすいように、文字サイズや書式を変更して配信いたします。



【保護者の皆様へのお願い】

①さくら連絡網での欠席連絡について

児童の遅刻や早退、欠席等の連絡につきましては、さくら連絡網をとってお知らせいただいているところです。**理由の欄にはお子さんの症状やようすをできるだけ詳しく記入してくださいとたいへん助かります。**学校全体として病欠が多いときなどに学校全体の傾向を把握し、その後の対応を決定するのに役立てます。みなさまにはお手数をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

②正面入り口側（道道）への駐停車について

このことにつきましては、近隣の住民の方や通行される方から多くの苦情が寄せられております。**スクールバスの運行や対向車の通行の妨げにならないよう、生協側の道路をご利用ください**ますようお願いいたします。なお、**児童の登下校時間帯の学校敷地内への車両の進入は児童の安全確保のためできません。**引き続きご協力をお願いいたします。